

基本施策 5 1 農林業の振興

- ・農業生産と生活、生態環境が調和した「循環と共生の空間」として、農村の価値と魅力の発展を図るとともに、農林業の産業・職業としての魅力を高め、栃木市ブランド農産物の生産振興を図るとの施策が目指す姿とされており、成果指標とされている新規農業者数は目標値を上回り、担い手への農地集積もおおむね達成されていることから、成果が表れていると感じた。
- ・双方向型農業として、市場や消費者のニーズに合わせた生産を推進していくとの説明があり、食品ロスの削減にも繋がる有効な取組であると考えられるので、今後もアンケート調査やその結果分析を通じて状況を把握し、市民ニーズを捉えつつ、品質の高い真の栃木品質を掲げた農産品生産に繋げていただきたい。
- ・昨今において、課題とされている高齢化や後継者不足による農地の管理放棄により、農地だけでなく里山や周辺への環境悪化が懸念されているので、農業への連携・支援体制への強化として、多世代で助け合いながら農業を推進していく仕組みづくりが必要であると感じている。
- ・本市の農産物を活かした食品加工ができる企業の誘致を検討いただき、営農と企業との連携により、農業経営の充実が図れるような取組への展開を期待する。

基本施策 5 2 商工業の振興

- ・社会情勢による円安や原材料価格・物価高騰の中小企業への影響は重大であり、本市においても様々な手法により、事業者支援を行っていると評価している。
- ・事業者支援の1つとして実施された、物価高騰対策によるキャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンといった新しい取り組みは、評価に値する。
- ・今後は、利用状況や傾向、利用地域等の利用実績をデータにより把握し、地域や世代ごとの傾向を分析し、支援による効果を反映させた更なる取組に努めていただきたい。
- ・グループ内での意見として、キャッシュレス決済は世代や地域によって利用状況に変動があるので、地域商品券とのバランス運用も対策の1つとして考えていただくようお願いする。
- ・中小企業への融資制度や補助制度による支援が図られているが、成果指標が年間製造出荷額であるので、融資を行うだけでなくそれを通じた効果のレビューを強化し、売り上げの向上把握だけに捉われず、多方面からの分析に努めていただきたい。

基本施策 5 3 雇用の創出

- ・施策が目指す姿として、企業の誘致や新たな産業の創出により地域経済が活性化され、市民一人ひとりが様々な分野で活躍し、生きがいを持って働くことのできる環境を整備するとの目標であり、企業の誘致における立地企業への初期投資はもちろんであるが、雇用の創出においても支援が必要と考える。指標である新規雇用者数を達成することが雇用の創出にとって有効であるならば、進出企業における市民の新規雇用者数や雇用者の定着率も

把握いただき、雇用傾向の分析へと反映させていただきたい。

- ・企業を誘致するにあたっては、地域住民の協力、理解は不可欠であるため、次の段階として今後の立地企業との契約時には、創業後における周辺の環境整備や地域へのアフターケア等を念頭に置いていただくといった積極的な条件の盛り込み等を企業へ働きかける点につきましてもお願いしたい。
- ・新産業創出の推進においては、最近では店舗を構えず、空き店舗を活用したシェア店舗やキッチンカー等による新規ビジネスが見受けられ、市内のイベント時等への出店も目にするので、そのような形態の方々が参入しやすい土壌づくりも取り組んでいただきたい。

基本施策 5 4 観光振興

- ・観光の振興に関しては、認知と定着視点が重要であり、本市の観光拠点を発信するにあたり、ネットを通じた幅広い情報発信は必要不可欠と考えられる。
- ・観光客のニーズに合わせるためのリサーチについても、SNSにて若者の力を活用し、お気に入りのアピール合戦を行う等も1つの手法だと考えられる。このように様々な手法を取り入れ、栃木市の魅力ある資源を活用した観光振興に繋げていただきたい。
- ・各地域の観光資源の活用や地域性を生かし、観光客が幅広く回遊できるよう工夫を取り入れ、市外から来訪した観光客が名所・名物を再度巡りたいと思うような、リピート率向上に繋がるおもてなしの心を持った観光振興の対策をお願いする。

基本施策 5 5 市の魅力発信

- ・市民が栃木市に愛着と誇りを持って住み続け、自ら栃木市の魅力をアピールすることで、交流・定住人口の増加が図られ、魅力ある市になるといった施策が目指す姿であり、それを掲げる取組は尽力されていると評価している。
- ・SNSやメディア配信を活用し、本市に“また来たよ”といったリピーターからの声を反映した魅力の発信や、栃木市に興味を持つターゲットに向けたメッセージを届けるといった更なる魅力発信の工夫を通じた取組拡大をお願いする。
- ・とちぎふるさと大使や文化マイスター等の地域の歴史や古代史に詳しい人材を幅広い目で活用し、次世代を担う子供たちに栃木市の良さを継承していき、「栃木市に住んでいてよかった」「将来的には栃木市に帰りたい」といった郷土への愛着と誇りの醸成につながる取組に努めていただきたい。